

技術者倫理

注意義務、正直性、説明責任
警笛慣らし、

都市工学科教授
皆川 勝

職務と注意義務

× 危害抑止の二つの立場

- + 経営陣：適切な人員の配置と監理
- + 技術者：適切な職務遂行

× 階層組織における、静的職務割、動の実務

× 技術者の注意義務(duty of care)

- + 自分に割り当てられた業務
- + 目前にあることが自分の業務であるかの判断
- + 通常は自分の業務でなくても、緊急の場合、自分が執行可能な業務

注意義務

× 注意義務の2段階

- + 状況認識の注意義務
- + 結果回避の注意義務

× 注意する方法

- + 人の五感による。
- + 科学的方法を活用する。

注意・過失・欠陥

× 過失(fault)とは、注意義務を負っている人が、注意を怠ること(negligence)

- + なすべき注意を怠ること
- + 予見可能であるのに、不注意で予見しない
- + 回避可能であるのに、不注意で回避しない

× 「欠陥」のない製造物になるように「注意」を払い、その結果、「過失」がない限り、「欠陥」のある製造物はできない。

× この三者の定性的関係はどうか。

正直性・真実性・信頼性

- × 米国での技術者倫理で重要視された。
- × 「正直性」 + 「真実性」 → 「誠実性」
- × 誠実な人は、他の人の「信頼」を得られる。
 - + 民法第1条「権利の行使及び義務の履行は、信義に従い誠実に行わなければならない」（信義誠実の原則、信義則）
- × 一般の正直性：「嘘をつくと罰が当たる」、「正直者はバカを見る？」

技術者の正直性

- × 専門職として正直に公言し、それにしたがって行動すること。「科学的・技術的な正直性」「FFP」
 - + ねつ造(fabrication)：でっち上げ などは正直でない行い。
 - + 改ざん(falsification)：データを故意に修正する
 - × トリミング：ばらついたデータを、ばらつきがないように見せる。
 - × クッキング：理論に合うデータだけを残す
 - + 盗用(plagiarism、剽窃)：他人の作品を自分のものとして発表
- × 何を真実として公表するかについて、真実性の判断がなされる。何が真実か？
- × 製造物責任法による解釈
 - + 「公表する技術者は、公表のときにおける科学技術の知見によって真実であることを認識して、それを正直に公表するものとし、その知見の基準は、入手可能な最高水準の知識とする」

説明責任

- × 科学技術との関係で、公衆は、「よく知らされた上での同意」をするために、「知る権利」があり、これに対して、技術者は、公衆が納得するように、「説明責任」があり、それを果たす「情報開示」が必要になる。
- × 対象は公衆、科学技術は公衆にはわかりにくい
- × 相互の信頼関係に支えられる。
- × 信頼を得るためには、倫理的な行いが必要
- × 説明責任とは、信頼関係を確認しながらの情報開示である。

警笛鳴らし（再掲）

- × 個人と所属組織の判断が異なる場合の行動
 - + 任務拒否
 - + 対立行動
 - + 抗議行動→警笛鳴らし、内部告発（密告を含む）
- × 警笛鳴らしが道徳的である条件
 - + 公衆への重大な危害が予見
 - + 専門的知見から組織より自分の正当性が示せる
 - + 重大な危害を防止する効果があること
 - + 組織内部の人や部署に相談しても解決できない

警笛鳴らしの3つの方法

- × 実名による方法
 - + 実名で通知。不当な扱いを受ける可能性、法律的・公的保護が必要
- × 伏せ名による方法
 - + 本名を公表しない条件で通知。保護は不要
- × 匿名・無名による方法
 - + 通知が無責任になりやすい。通知者と事実確認できない。効力は弱い。

密告、垂れ込みとの区別

- × 個人の利益のために、匿名を条件に、雇用者以外の第三者に情報を漏らし、報酬を得る。
- × 警笛鳴らしとは明確に区別すべき。
- × 内部告発には、警笛鳴らしと密告を含む。

組織の取り組みの必要性

- × 技術者個人が、警笛鳴らしをする意識を持ちうる環境整備の必要性
- × 雇用者
 - + 上層部が倫理担当
 - + 意見くみ上げの仕組み
 - + オープンドア
 - + 苦情処理の仕組み（第三者の関与も）
- × 学協会など
 - + 倫理規定への明記、技術者の支援、顕彰など

重要なポイント

- × 技術者倫理とは 倫理と法
- × 専門家である技術者に責務
- × 集団思考の陥穽
- × 公衆と公共
- × 利害相反
- × 雇用者・被用者、依頼者・受託者
- × 科学者・技術者・技能者作業員
- × 工学と技術
- × 技術者資格
- × 倫理綱領の基本構成、技術者の責務
- × 功利主義・多数決と少数派
- × 注意義務・正直性・真実性・信頼性
- × PL法、注意・過失・欠陥
- × 技術倫理のFFP
- × 説明責任・情報公開・知る権利
- × 警笛鳴らし・内部告発
- × 7ステップによる倫理問題解決